



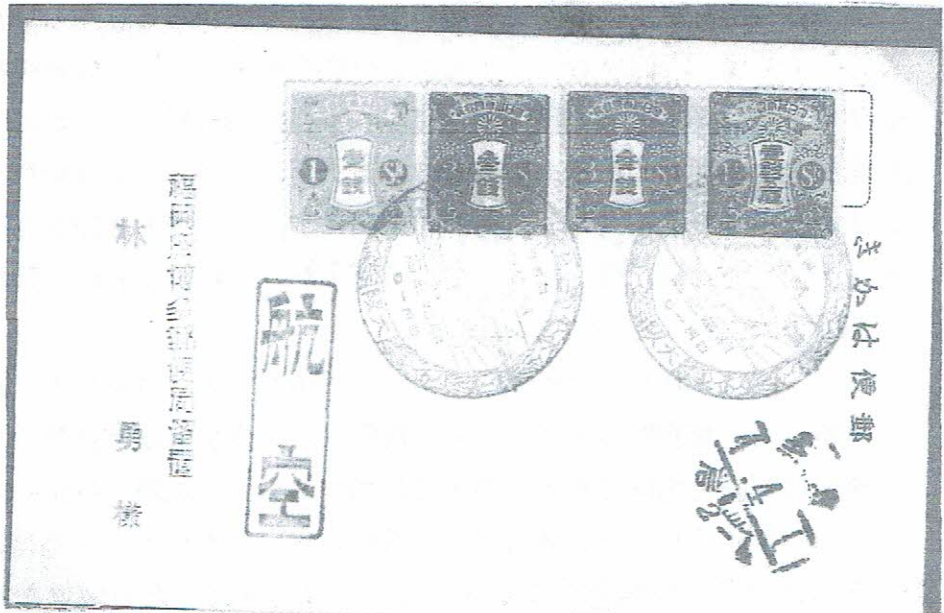
おごおり

第376号

日本郵趣協会 小郡支部

第31巻 第7号 2021. 7. 1

大阪より福岡へ



消印 記念印 大阪昭和4、4、1
着印 博多 4、4、1

試験飛行を繰り返し4年が経過した昭和4年4月1日、航空郵便と名称を代えた。航空郵便料金は普通郵便料+航空料金で航空料金は、内地相互間は、はがき7銭、封書は4匁毎に15銭だったが、6月21日から封書は内地から外地あては30銭になっている。

路線は東京—大阪—福岡間。蔚山—京城—平城—大連間で、6月1日から大阪—高松—松山間も取扱ことになった。内地と朝鮮間は玄界灘や対馬海峡があり慎重なテストを経て福岡蔚山間を6月21日に開設し福岡—大連間の路線が完成、東京から大連までつながった。

福岡で航空郵便の取扱は博多郵便局で、飛行場まで護送し航空会社と受授していた。当時は太刀洗陸軍飛行場の片隅を借り受け陸上機で航空郵便を空輸していた。博多郵便局も太刀洗分室を設けて郵便利用の便宜をはかっていた。

僕が保有する東京福岡間実遞便の中に書留郵便がある。珍しいから買ったもので、福岡からアメリカあての航空郵便である。日本最初の航空郵便に記念切手5枚普通切手1枚貼り41銭の豪華なものに福岡の開始記念印3ケが押してある。書留印の福岡ナンバーリング印は神戸印で消され欧文ラベルを貼ってあり、封筒の裏面にアメリカでの2印がある。福岡から大阪までは飛行機、神戸からは船便になった経路がわかる飛行初日の実遞封書で立派なものである。

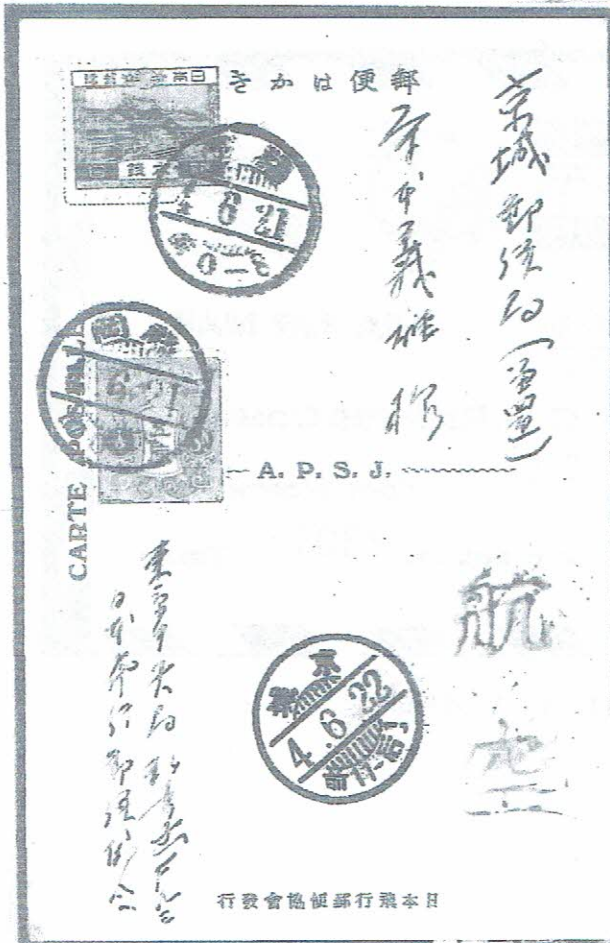
次に、運航されたのは台湾便である。昭和6年10月4日より試験飛行を実施した。郵便物の表面に「台湾飛行」と朱書すれば航空料金は無料飛行路線は福岡台北間で取扱は博多郵便局であつた。試験飛行が約2年も続いた昭和9年7月29日内台間準備飛行に移行した。この路線は、鹿児島から南西諸島や奄美群島の上空とはいえ海上飛行のため慎重な対応である。この内台間準備飛行郵便は見くらべたら試験飛行と変わるところはないようである。

試験飛行から4年の年月を経た昭和10年10月12日。内台航空郵便を開始、福岡台北間を結ぶことになった。

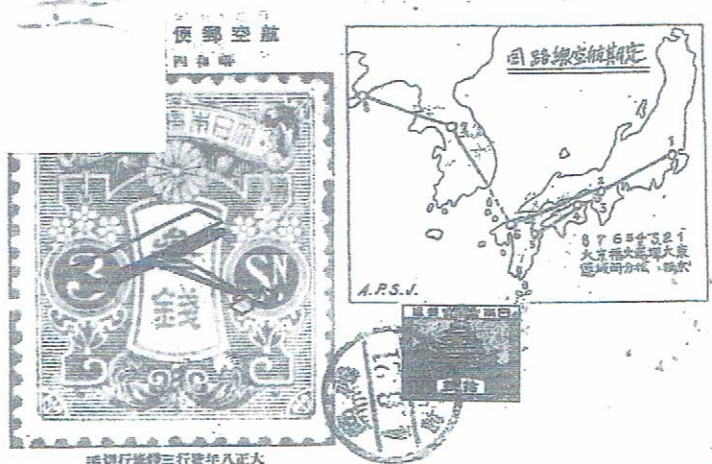
航空郵便

内地・朝鮮・滿州間連絡線発足

空白であつた福岡蔚山間を昭和4・6・21日に開設し、内地・朝鮮・滿州間の連絡路線が開通した。私葉に旧毛5厘+風景6銭、10銭貼。福岡4, 6, 21消着京城。



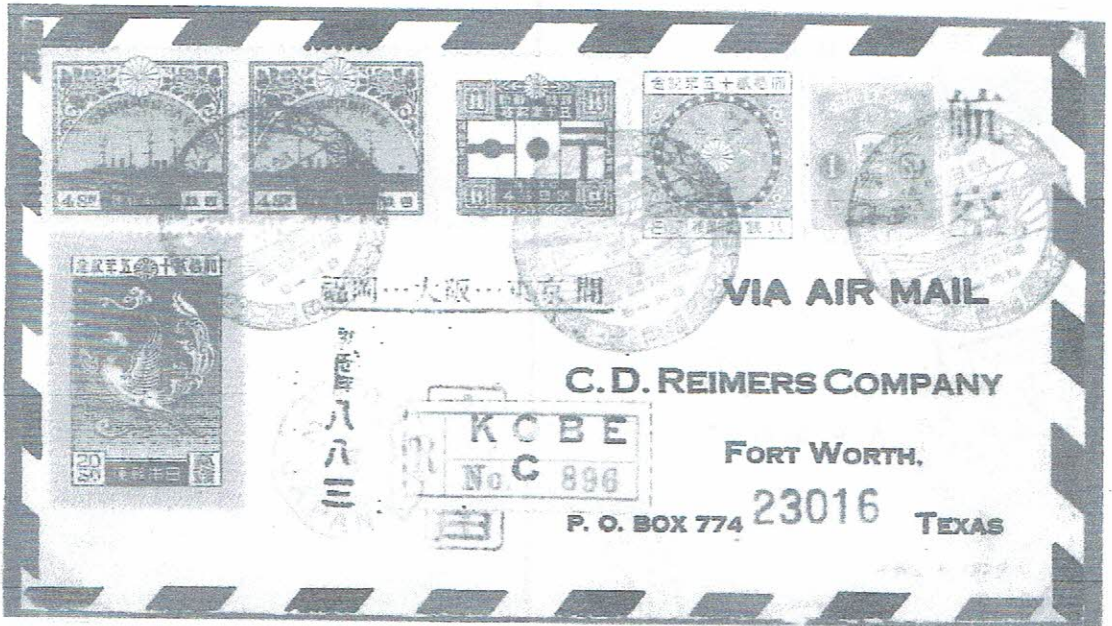
絵はがきの裏面



大正八年發行三線飛行郵便

航空郵便開始

昭和4, 4, 1 東京—大阪—福岡
旧毛1銭+記念切手40銭貼り 福岡よりアメリカあて

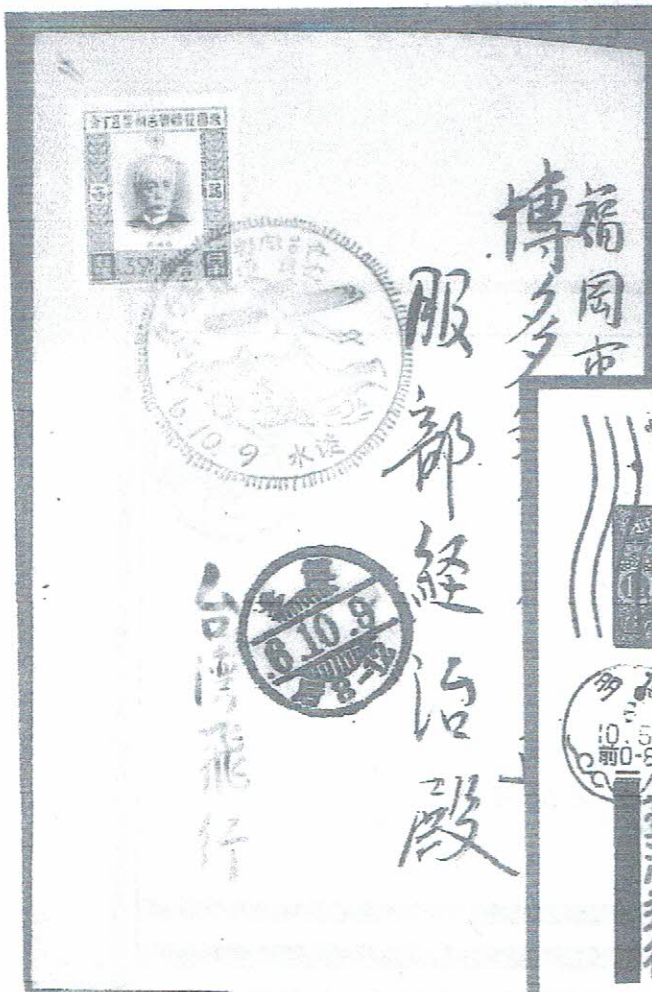


記念印 福岡4・4・1 神戸印

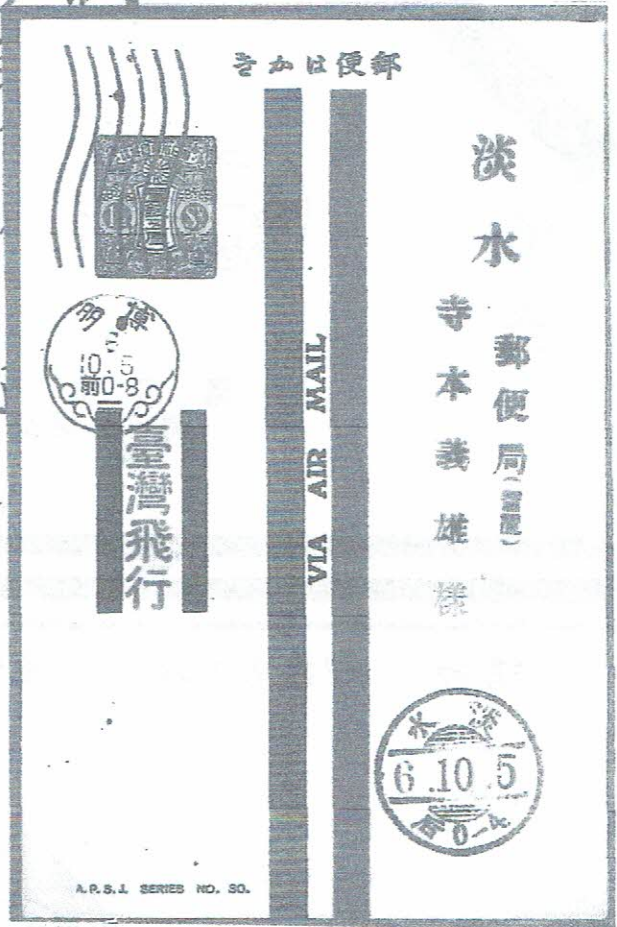
内台試験飛行郵便

昭和6年10月3日より福岡と台北間に試験飛行を実施した。

したの郵便は、淡水から博多あてと博多から淡水あて



消印 記念印 淡水6、10、9
着印 博多6、10、9

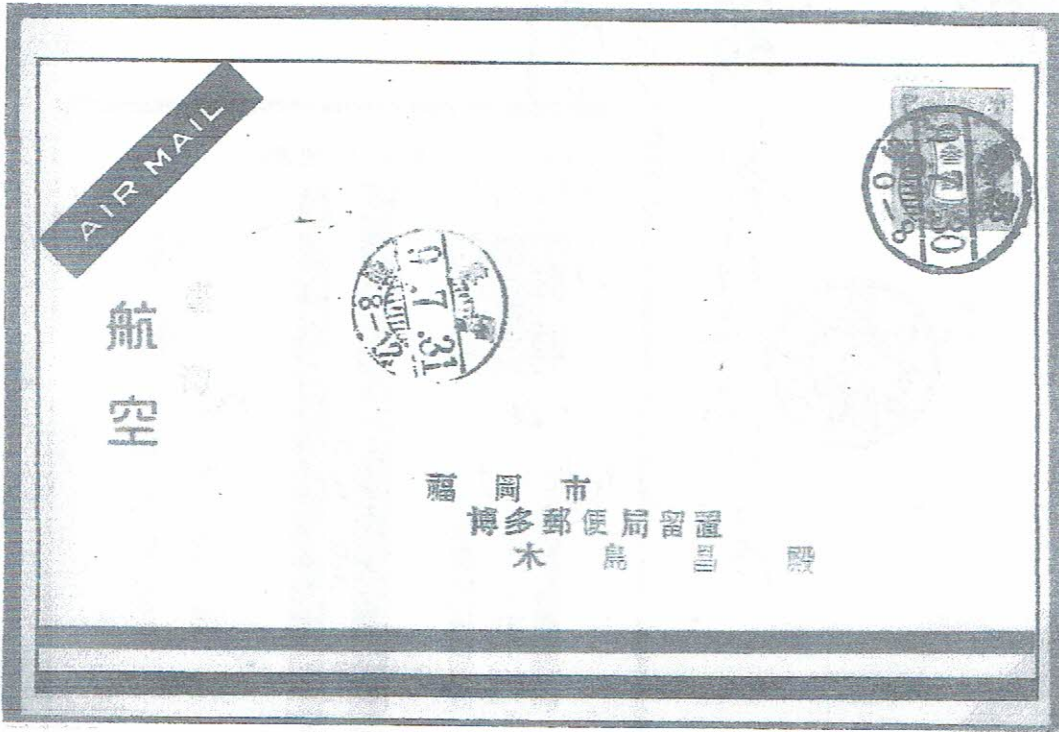


消印 博多6、10、5
着印 淡水6、10、5

内台間準備飛行郵便

昭和9, 7, 29。準備飛行と名称を変更される。

この郵便は、準備飛行期間に那覇から博多あて。

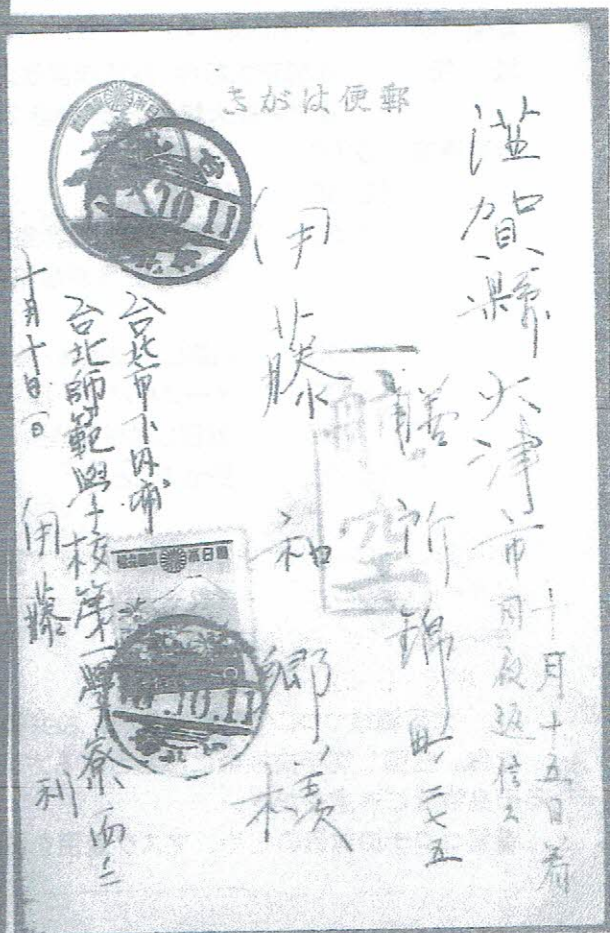
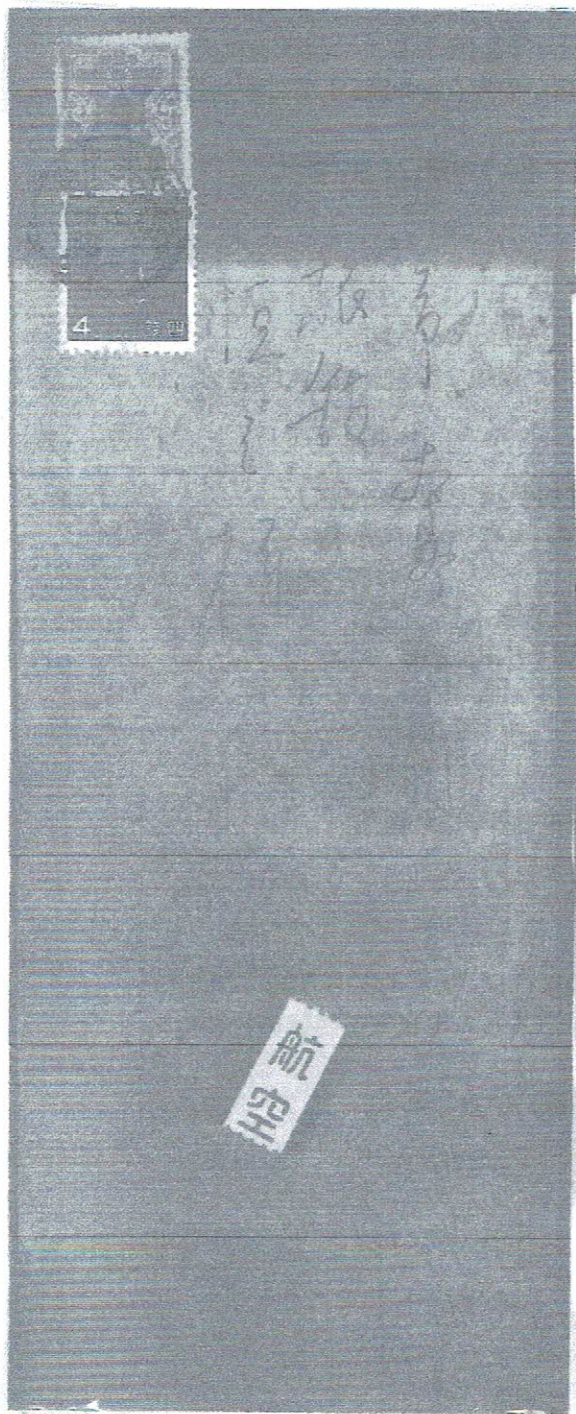


消印 那覇 9.7.30

着印 博多 9.7.31

航空郵便
内台航空郵便

内地と台湾との航空郵便は、昭和10年10月8日より実施された。(参考125)



台北市から澁賀県大津市へ
基本料はがき2銭+20銭=22銭
台北18、10、11消印

大阪市から台北市へ
基本料4銭+30銭=34銭
大阪中央12、12、18消印